# 07

# 設計演習ⅢB 面構造によるメモリアル空間

開講年次:学部3年生第2クォーター

### [担当教員]

光嶋裕介(光嶋裕介建築設計事務所)

竹口健太郎(アルファヴィル一級建築士事務所)

遠藤秀平(教授)

[Teaching Assistant]

木村友哉 (A67) 宅野蒼生 (A67)

#### ■課題主旨

メモリアル空間を(面状の構造により)計画する(面状の構造とは柱や梁による線材の架構ではなく、壁面/床面/屋根面の連続により構造躯体として成立するものを言う)。構造計画に関しては厳密な構造計算による根拠は求めないが、モデル検討及び構造力学的見地に立った基本的な考察を必要条件とする。この構造体を構成する材料は石・コンクリート・鉄・ガラス等一般的に流通するものとし、社会的な合意を得られるコストを前提とすること。また、平面計画や建築造形において形態的メタファーによる合意を目的とせず、計画する環境(場・空間)に対して身体的な関心と理解を探求すること。個人を象徴する空間を熟慮し、そこに必要な空間と場の特殊性を構造・構成・構築概念を手がかりに物理的提案として創出する。

#### ■概要

各自が社会的実績を勘案し顕彰に値すると判断する人物を選択、その個人のためのメモリアル空間を設計する。敷地の選定においては、選択の必然性を前提とすること。その他必要空間を設定し理想的な外部環境・ランドスケープを含めてのメモリアル空間を提案すること。延床面積は 2,000 平米程度とする。

#### ■敷地

各自設定。設定した人物にふさわしい敷地を選ぶこと。

#### ■提出物

A1図面3~5枚程度、完成モデル1:100、必要図面は各自設定し、 第三者に十分な理解を得られることを目的とする。

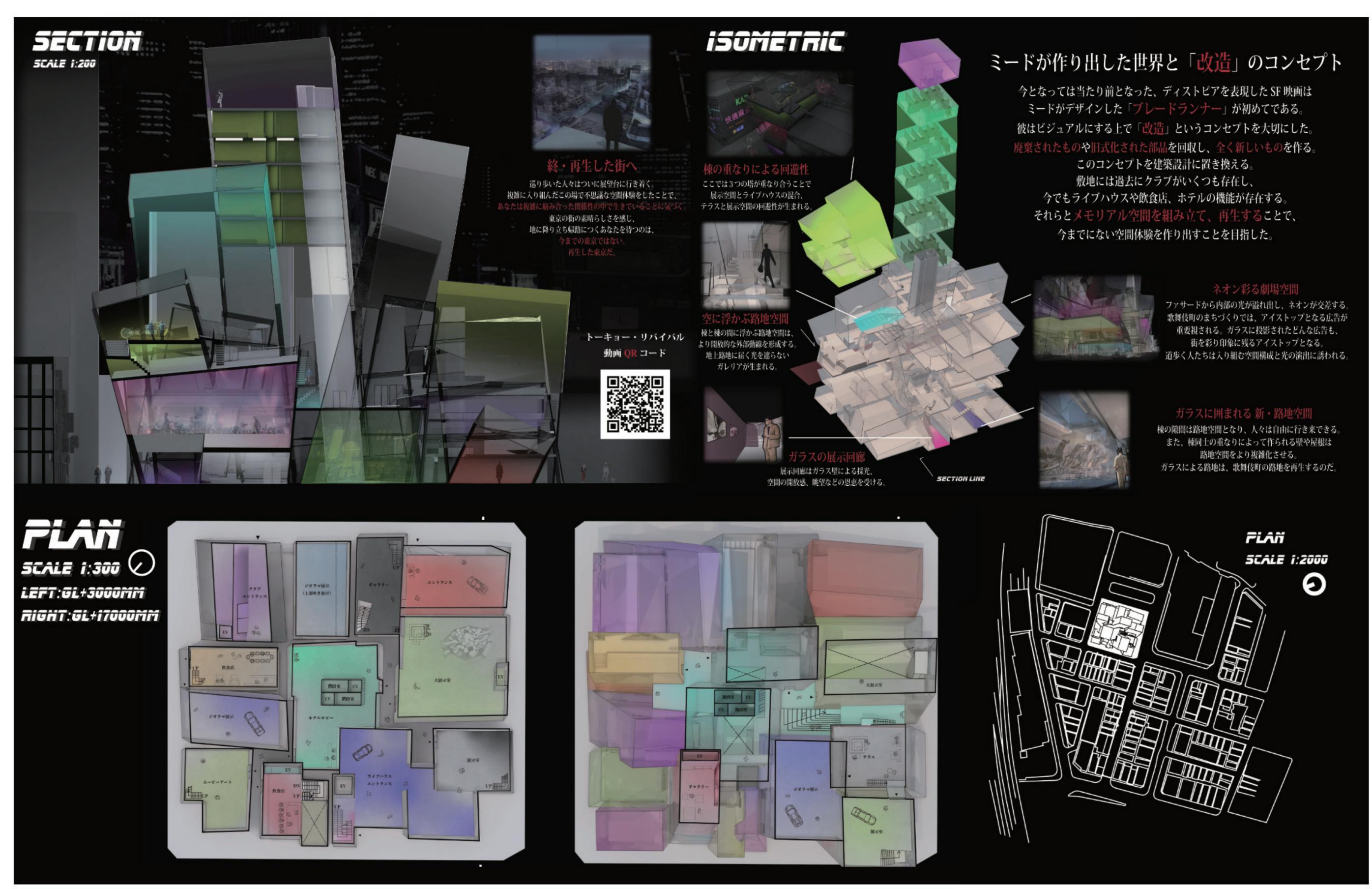
#### ■講評会の様子



# トーキョー・リバイバルー東京再生ー

## 中村幸介

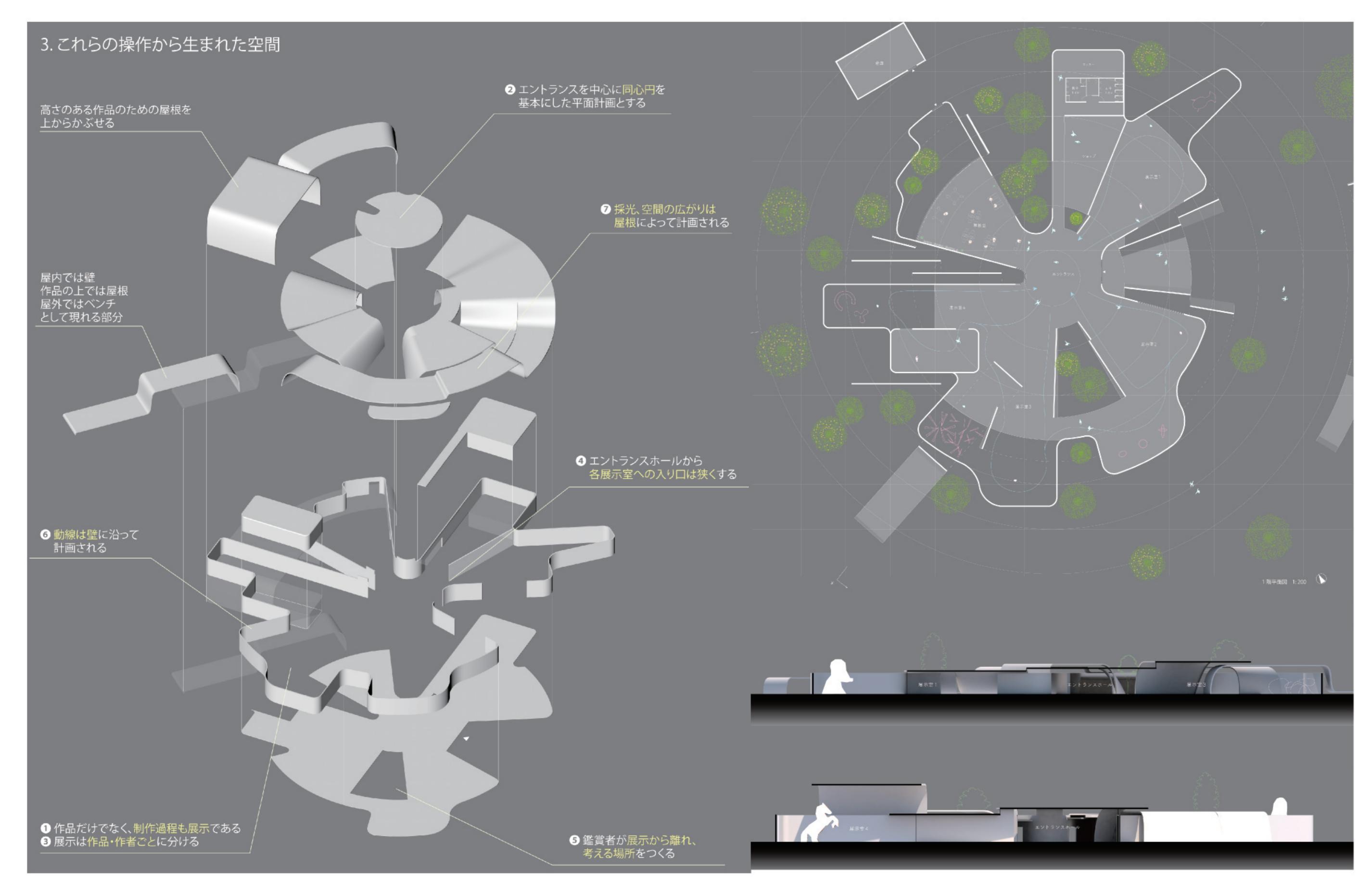
世界で最もカオスな都市を形成してきた東京は、均質な街に変わり行く。2019年の未来都市を描く映画「ブレードランナー」のデザイナーである、シド・ミード氏のメモリアルを歌舞伎町に設計する。既存要素と共に、東京の雑多な関係性を再構築する。



# Knox Museum 一推理小説から考える美術館の 7 つのルールー

## 山地雄統

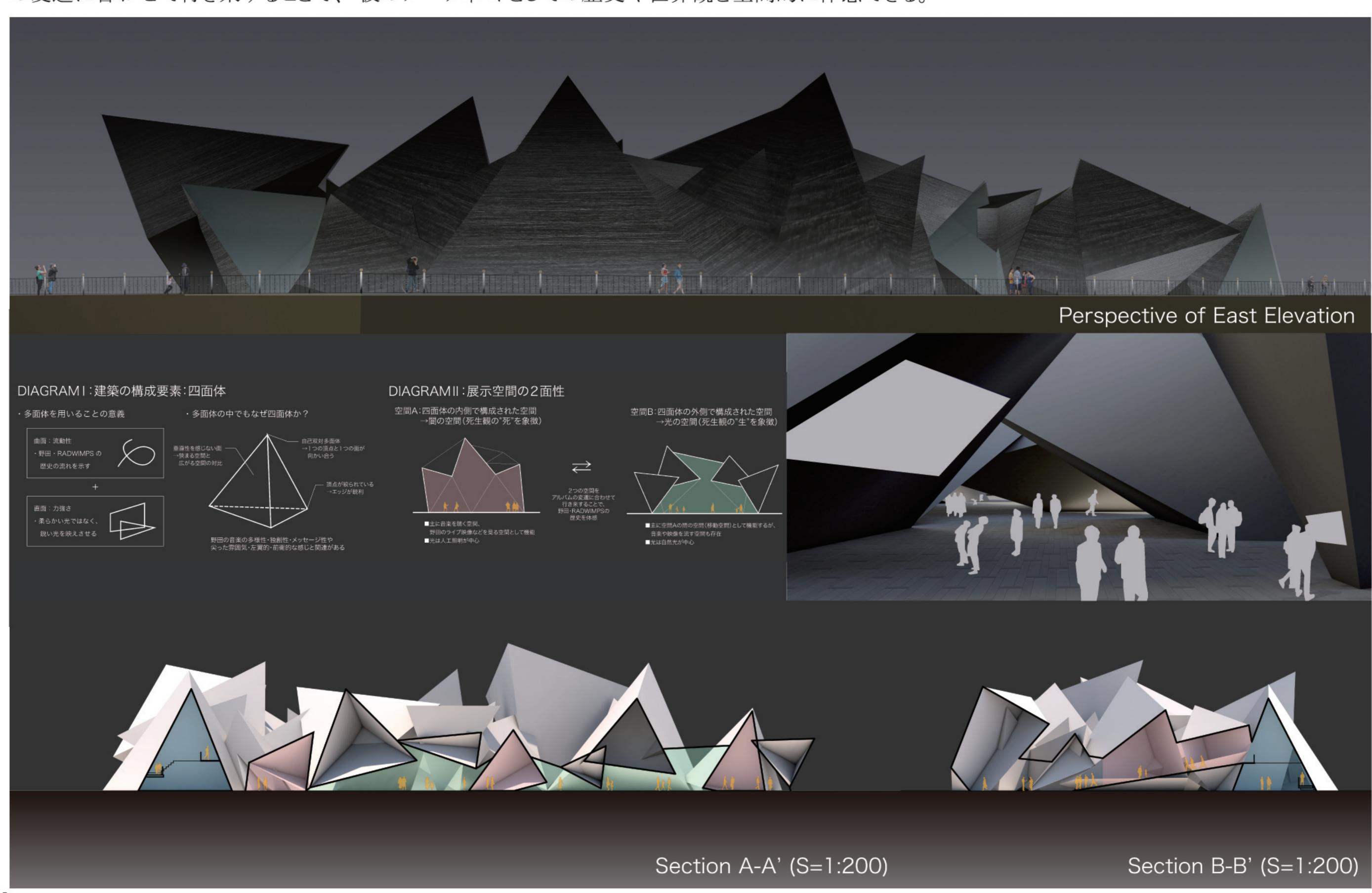
アートが単なる「映え」の対象でしかなくなり、作者と鑑賞者との間にギャップが存在している様子が散見される。 そこで作者と読者が常にフェアな 立場であるための推理小説のルール「ノックスの十戒」を建築に翻訳し、ミュージアムに適用することを提案する。



# Tetra×Arch. 一野田洋次郎メモリアル空間一

## 小野原祐人

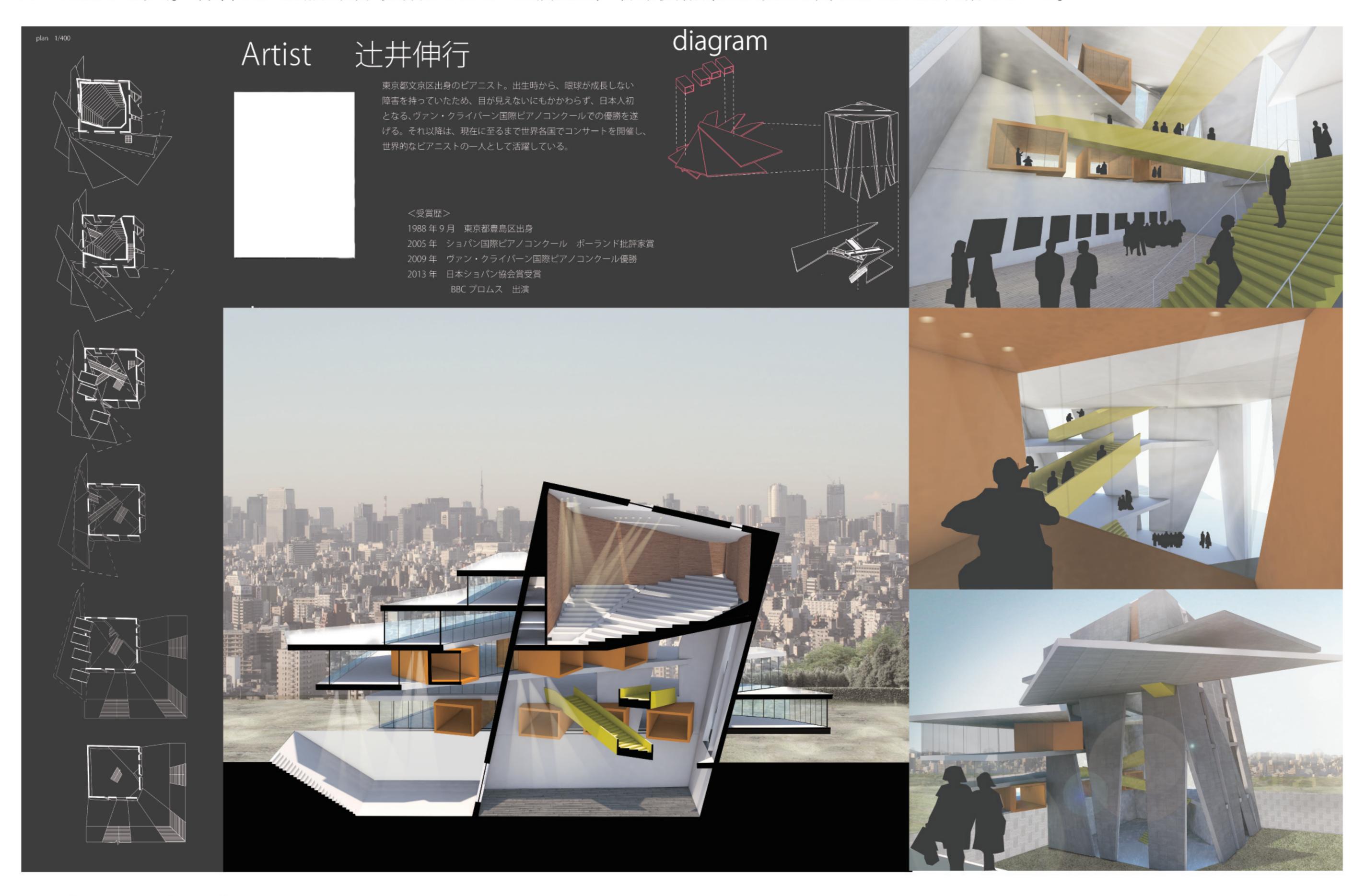
野田洋次郎が持つ死生観を、四面体の内部で囲まれた"闇"の空間と、四面体の外部で囲まれた"光"の空間で表現する。それらをアルバムの変遷に合わせて行き来することで、彼のアーティストとしての歴史や世界観を空間的に体感できる。



# 辻井伸行メモリアルホール

## 篠山航大

辻井さんと同じ盲学校の生徒たちが、彼のような音楽家になることを目指しここで練習する。ホールへの来訪者は、その様子を伺いつつ最上階のホールへと登ってゆく。練習室から漏れ出す光景がホワイエを満たし、音楽美術館のような空間になることを目指している。



## **Mobius Wheel**

## 滝田兼也

ドビュッシーの音楽を通じて近年のクラシック離れを食い止めることを目的とする。屋外の広場でミニコンサートを開催し、クラシックの音で周りの人々を呼び込む。また曲の分析により得られた曲の特徴をメビウスの輪に例えて建築に落とし込んだ。



